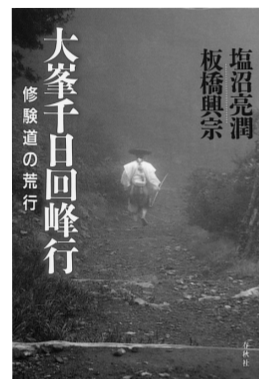


『大峯千日回峰行 修験道の荒行』

塩沼亮潤・板橋興宗 著 春秋社 1,890円(税込)

「何故,修行を続けるのか」
答えは,読んだ人それぞれに

会員 三神 光滋 (59期)



人は、眠らない、食べない、寝ない、横にならないで9日間もすごせるのか。生物学的には通常は不可能であろうが、これを実現した人がいる。塩沼亮潤阿闍梨がその人である。四無行^{しむぎょう}という修行で、千日回峰行^{せんにちかいほうぎょう}を達成した後に初めて行なうことができる修験道の修行である。この千日回峰行も超人的な修行であり、高低差1400メートルもある吉野山の山中を夜中の0時から午後3時まで、毎年5月3日から9月22日の120日ずつを使って9年間歩き続けるというものである。

宗教に関して無知な私からすると、阿闍梨の行動の真意は全く理解できない。しかし、それでも理解できたことがあった。「やり続けることが大事である」ということである。修行中、今日はやめたいと思ったことは何度もあったらしいが、そのような気持ちを振り切って山に入っていく。体調が悪くても山に入

っていく。何故か。その答えは、この本を読んだ人それぞれで異なっているはずである。私の答えは「向上心」であった。弁護士となって1年たったが、まだまだ知らないことが多く無駄に時間ばかりがかかっている毎日を、おこがましくも千日回峰行と同じではないかと考えてみた。辛いと思うときもあったが、「向上心」をもって乗り越えてきたつもりである。何年か後に読んだら、違う答えを思いつくかもしれない。

この本には、このほかに神通力の話、宗教的な話、比叡山と吉野山との違い及び荒行をするための準備などについても書いてあり、この点もかなり興味深い。文章は、阿闍梨と曹洞宗の住職の対談という形式となっていて、読みやすく構成されている。

私は、年明けから、理由は宗教的なものではないが、事務所までの11階の階段を毎日登り始めた。何事も「やり続けることが大事」である。